



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さま等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.8 地域連携病院③「伊月病院」

『一期一会の心で最高最善の治療と看護』
今回は人的交流重視の伊月病院をご紹介します。

■連携による人材育成に力を注ぐ

人口当たりでは日本有数の医師数である徳島ですが、その徳島で「神経内科では民間トップクラスの病院を目指してきました」(加藤宗利経営改善室長)と、いささか自信と自負を込めて語るのが伊月病院です。

徳島全県区はもちろん四国、関西、本州方面からの患者さんも珍しくないそうです。

伊月豊度(いつきとよのり)理事長は昭和30年に徳島大学医学部を卒業、第一内科医局を経て昭和45年に開業して今日に至ります。また、平成12年に病院長に就任した西田善彦院長もまた徳島大学医学部の出身で、神経難病を中心に幅広く神経内科の診療に力を入れています。

さらに、より良い在宅療養をサポートするため徳島神経難病自助ケア研究会を主宰し、徳島大学医学部学生の学外実習も定期的に担当するなど、連携を深めてきました。

そうした人的なつながりや交流が優れた医師の育成に結びつき、医療面でのレベルアップに反映されるという好循環になっているようです。

ちなみに、淡路島方面から通ってきていた患者さんの強い要望により、平成7年に洲本に150床と徳島の倍近い病院の新設となったことが、患者さんや地域の信頼の厚さを何よりもよく物語っているといえるでしょう。

進出ではなく要請によるというところが、これまた病院としての信頼性の高さを象徴するところです。

■病院の理念に「スタッフの自己実現」

伊月豊度理事長のモットーは、「患者さんとの交流を大切に、一期一会の思いを込めて、安心して診療に望める病院を目指す」ということ。

例えば長期の療養になるとしても、診療の瞬間、瞬間に全力で最善を尽くすことを心がけているわけです。

また、地元の四国放送ラジオでは「健康相談 あなたの診察室」の番組を持っており、こちらは理事長、病院長をはじめ病院の医師総出で担当し幅広い分野の質問に答えるというもので、広く県民の健康増進に努めています。

多忙な病院経営のかたわら、傘寿(80歳)をすぎたなお長距離ドライブが趣味で、海外旅行、とくにウィーン訪問は25回を数えるという健脚ぶりで、健康で福々しい日々の伊月理事長です。

旅行先では病院のスタッフ一人ひとりに、それぞれ自分で見立てたお土産を準備する気配りを忘れません。

病院理念に「一期一会の心を持って社会に奉仕」と共に「スタッフの自己実現をはかる」ことを掲げるスタッフおもしろい人柄が、病院の調和をより一層盛り立てているようでした。

「地域医療連携」について

徳島大学病院地域医療連携センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しを目指して、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。



説明は
伊月病院
片岡 正博 事務長
(かたおかまさひろ)

写真は
伊月 豊度 理事長
(いつきとよのり)

■問い合わせ
医療法人いちえ会 伊月病院
徳島市徳島町2-54
Tel.088-622-1117